

平成 29 年度第 2 回 垂水区地域包括支援センター運営協議会（議事要旨）

- 1 日時 平成 29 年 12 月 26 日（火） 午後 1 時 30 分～ 午後 3 時 05 分
- 2 場所 垂水区役所 2 階 健康教育室 2, 3
- 3 議題
 - (1) 平成 29 年度上半期 あんしんすこやかセンターの運営状況について
 - (2) 介護予防ケアマネジメント対象者が要介護状態となった場合の取り扱いについて
 - (3) 平成 29 年度第 1 回 神戸市地域包括支援センター運営協議会の報告
・あんしんすこやかセンター運営評価について

【以下非公開】

 - (4) 特定事業所へのサービス集中率について
 - (5) 地域包括ケア充実のための事業目標
- 4 出席者 委員 12 名中 10 名出席 傍聴人なし
- 5 当日出された主な意見・質問および事務局回答（要旨）
 - ① 地域包括支援センターの運営評価について、縦軸 S に「-」と記載されている項目は、S という評価段階がないということか。
⇒ご指摘のとおり、A か B の 2 段階しか評価段階がない項目である。

【以下 非公開議題】

- ① 塩屋あんしんすこやかセンターの事業計画について、他のセンターと比較するとボリュームが少ないように感じる。活動内容もアンケート調査にとどまっているが、課題解決のための具体的な手立ての計画が必要ではないか。
⇒塩屋あんしんすこやかセンターは、前年度まで介護予防の取り組みとして「塩屋いきいき体操」の普及・啓発に力を入れており、成果を持って終了した。今年度は実際の事例から、「地域の中に誰にも相談できていない人がいるのではないかと課題を設定し、実態把握のために広くアンケート調査を実施している。シートに記載はないが、個別事例解決や地域課題解決のための地域ケア会議も開催しており、下半期は取り組み全体を見て評価していきたいと考えている。
- ② 東垂水あんしんすこやかセンターと本多聞あんしんすこやかセンターが2圏域を担当しているが、東垂水のシートが1枚で、本多聞のシートが圏域ごとに2枚作成されているのには理由があるのか。
⇒介護保険課から、2圏域を担当するセンターが必ず圏域ごとにシートを作成しなければならないという指示が出ているわけではない。東垂水は2圏域全体を見て課題を抽出し計画を立てており、本多聞はそれぞれの圏域ごとに課題を抽出し計画を立てるため、シートの枚数に差が出ている。
- ③ 認知症サポーター養成講座や声かけ訓練の取り組みを通し、認知症の方への地域の理解が少しずつ広がっている。パジャマ姿で徘徊している方の情報が地域住民から病院に入ることがここ1年間で何件もあり、今までになかった効果を感じている。認知症サポーター養成講座の受講対象者を具体的にどう広げていくか、今後も検討が必要だと思う。
- ④ 垂水区における認知症初期集中支援事業の進捗状況はどうなっているか。
⇒垂水区においては9月からスタートしている。あんしんすこやかセンターから6事例相談があり、いずれも対応中である。4事例は医師会のサポート医を含めて事例検討を行い、2事例については現時点で事例検討に至っていないが、対応中であると聞いている。
- ⑤ 施設入所した方について、入所後に入れ歯が合っていないことや虫歯があることが初めて分かる方が多い。在宅時であればすぐに往診できるが、入所してしまうと対応が難しくなるため、口腔内の診査をしてから入所できるような仕組みができればありがたい。
⇒次期介護保険事業計画の中で、口腔フレイルにも力を入れて取り組んでいく予定になっている。いただいたご意見については本庁所管課にも伝える。

以上